功績概要

【芸術文化分野】　川口　祐二　９１歳　作家

氏は、昭和 63 年に岩波新書別冊 2「私の昭和史」に掲載された論文が評価されたことを契機に、漁村文化、海女文化を記録するため聞き書きを開始した。以来、30 年以上にわたり、全国の漁村を行脚し、800 人以上の人々と出会い、20 冊以上の聞き書き集を出版してきた。

聞き書きの資料は変遷する漁村文化、海女文化の学術的資料として一部がデジタル化され、三重大学図書館にアーカイブスとして保存されている。また、三重大学の講座「日本の海女文化」の講師を平成 20 年から令和２年まで務めた。

これらの活躍により、平成 14 年に「三銀ふるさと三重文化賞」、平成 29 年に「斎藤緑雨文化賞」、令和 4 年に「三重県文化賞文化大賞」、「南伊勢町町民文化賞」など、数多くの功績を収めた。

その他にも、南伊勢町町民文化会館のアドバイザーを務め、文化フォーラム「野口雨情と南伊勢」等の施策はじめ、講演会や生涯学習講座の運営に具体的なアドバイスを行い、同館が南伊勢町の文化発信拠点としての役割を果たす上で多大な貢献をしてきた。

氏のこうした活動と功績は極めて優れたものであり、本県の文化の向上に大きく貢献している。

【芸術文化分野】　田村　美保子　７８歳　音楽家

氏は昭和 60 年より、大正琴講師として県内にて活動を続けると同時に、より多くの県民の方々に大正琴音楽のすばらしさを知っていただきたいと、三重県大正琴協会の設立に尽力し、同時に会長に就任した。

その後、平成８年の第２回みえ県民文化祭より大正琴部門としての参加を実現させ、以降、みえ県民文化祭にて毎年大正琴の事業を行い、県民へ広く、また地域に根差した活動を続け、三重県全体の文化向上に貢献している。

協会設立以前は、三重県内の大正琴の各流派間の交流は少なく、氏の功績による流派を超えた団体づくりは、県内外の大正琴指導者に多大な影響を与え、後に社団法人大正琴協会設立の足掛かりとなった。

また、演奏家として、県内だけにとどまらず、海外でも演奏し、現地の方々から高い評価を受けるなど、長く大正琴の演奏者としても目覚ましい成果を上げた。

さらに、未来ある子どもたちに大正琴を伝承するため、無償で子どもたちに大正琴を指導するなど、後進の育成にも大きく貢献している。

近年では、「全国子ども大正琴コンクール」の金賞や文部科学大臣賞を目指す子どもたちの指導者として、全国から注目されている。

こうした氏の永きにわたる活動の中で、本県における音楽文化の振興発展に果たしてきた功績は極めて大きい。